経済産業省

第９７回 ISO/TMB（技術管理評議会）結果報告

2026年11月12日

経済産業省　イノベーション・環境局

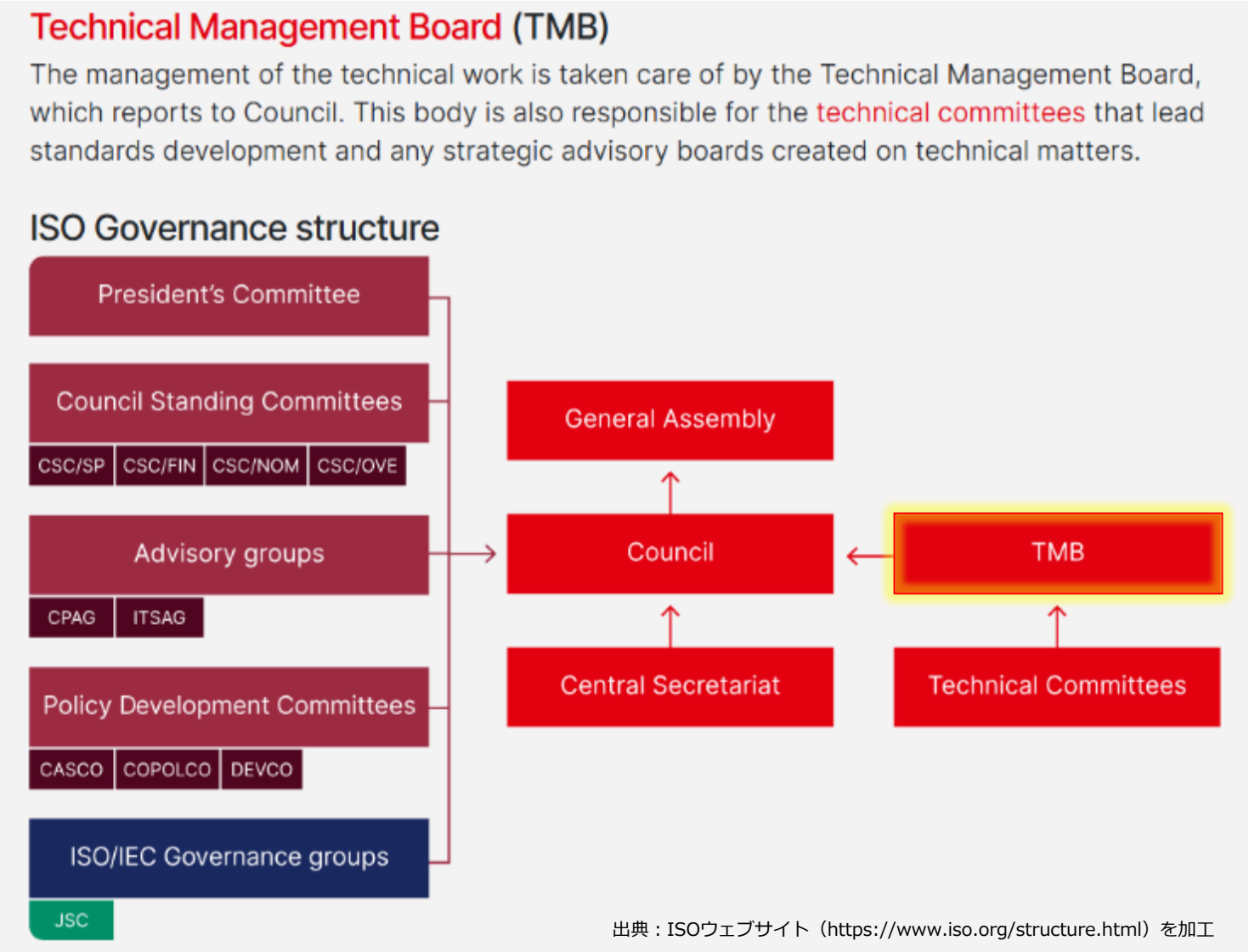
国際標準課　課長補佐　西村　美香

１．TMBとは

TMBとは

ミッション

- ISO規格作成に関する管理事務的事項
  - TC/SC/PCの設置・廃止
  - 議長任命
  - 幹事国割当
  - ISO/IEC専門業務用指針の改訂　等
- ISO規格作成に関する戦略的事項
  - 規格開発の効率化・迅速化
  - TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認
  - TC/SC活動の調整・モニタリング　等



出典：ISOウェブサイト（https://www.iso.org/structure.html）を加工

２．第97回TMB会合概要
（2026年9～10月）

概観

第９７回TMB会合概要

- **フランス・パリでのISO総会に合わせて、９月２８日、１０月１日及び７日（オンライン）の３回にわたるTMB会合が開催された。**
- 今回は**理事会・TMB合同ワークショップ（テーマ：ステークホルダー・エンゲージメント）、理事会・TMBディナー等のイベントが開催された**こともあり、ISO会長を含むISOの主要メンバーの多くと交流の機会を持つ機会となった。
- 次回会合は来年３月中旬に韓国・ソウルで開催予定。



【ISO会長及びTMB委員達と】

会議出席者

議長・委員

議長（ISO副会長（技術管理担当））	氏　名
TMB議長（～2026）	Mr. Javier García (スペイン)
次期議長（2027～）	Mr. Ruggero Lensi（伊）

ISO事務局	氏　名
ISO事務局 会長（一部のみ） President	Dr. Khaled Soufi
ISO事務局 Director, Standardization	Mr. Marco Rossi
ISO事務局 Head of Standards Development and Technical Policy	Mr. Antoine Morin
ISO事務局 Policy Officer	Mr. Rory Meredith

その他	氏　名
SMB議長	Mr. Vimal Mahendru

国・機関	TMB委員　氏名
ブラジル ABNT	Dr. Jorge E.R. Cajazeira
仏 AFNOR	Mr. Franck Lebeugle
米 ANSI	Ms. Sara Desautels
英 BSI	Ms. Amanda Richardson
独 DIN	Dr. Michael Stephan
デンマーク DS	Ms. Pouline Terpager
日 JISC	Ms. Mika Nishimura　（新任）
韓 KATS	Mr. Young-Jun Moon
ケニア KEBS	Mr. Zacharia Lukorito Chepkania
豪 SA	Ms. Karen Batt　（今回で退任）
中 SAC	Dr. Wei Sun
サウジアラビア SASO	Mr. Omar Algwaiz
スウェーデン SIS	Ms. Karin Lindmark
スイス SNV	Mr. Marcel Knecht
スペイン UNE	Mrs. Natalia Ortiz de Zárate

議題

青字：TMB決議あり
黒字：TMB決議なし（討議、情報提供等）

1. **Opening of the meeting**
   - 1.1 TMB Chair's opening remarks
   - 1.2 Declaration of conflicts of interest
   - 1.3 Adoption of the agenda
   - 1.4 Follow-up actions from the last meeting
2. **Report from the Chair**
3. **TMB work programme**
   - 3.1 TMB strategic overview
4. **Policy issues**
   - 4.1 Kigali Agreement Annex I — parallel standards development
   - 4.2 PSDO Joint Development policy
   - 4.3 Annual Council/TMB selection of committees for strategic engagement – follow-up
   - 4.4 External liaison policy
   - 4.5 Modernization of the L. D. Eicher Award process
5. **Activities of groups reporting to the TMB**
   - 5.1 TMB projects (leading)
   - 5.2 TMB projects (contributing)
     - 5.2.1 CSC/SP-TMB TF on the review of principles of cooperation with other organizations
   - 5.3 TMB task forces (TFs)
     - 5.3.1 TMB London Declaration Action Plan TF
   - 5.4 Strategic advisory groups (SAGs)
     - 5.4.1 No active SAGs
   - 5.5 Joint groups with partners
     - 5.5.1 TMB-DEVCO Joint Task Force on Twinning
     - 5.5.2 Update from the JTF on JTCs
   - 5.6 Coordination groups
     - 5.6.1 Critical Minerals Coordination Committee (CMCC)
     - 5.6.2 Climate Change Coordinating Committee (CCCC)
     - 5.6.3 Smart Farming Coordinating Committee (SFCC)
     - 5.6.4 ESG Coordination Committee (ESGCC)

議題（続き）

青字：TMB決議あり
黒字：TMB決議なし（討議、情報提供等）

6. Standards programme management
- 6.1 Committee activities
  - 6.1.1 ISO/TC 213 – SNV appeal on ISO/FDIS 2768
  - 6.1.2 CASCO request for allocation of ISO 19011
  - 6.1.3 Engaging with the 2025 L. D. Eicher Award winner
  - 6.1.4 ISO/GHGP Partnership – Update
  - 6.1.5 ISO/TC 262 – Update on SA and SCC appeals on ISO/NP 31011
  - 6.1.6 ISO/TC 34/SC 19 - Update on SAC appeal on ISO 24607
- 6.2 Deferred decisions
- 6.3 Proposals for new fields of activity
  - 6.3.1 TS/P on Intellectual property
  - 6.3.2 TS/P on Positioning, Navigation, and Timing (PNT) services
  - 6.3.3 TS/P on Geothermal energy
- 6.4 Strategic planning update

7. TMB monitoring and performance improvement
- 7.1 Measurement Framework

8. ISO/IEC directives
- 8.1 Publication of new ISO/IEC Directives

9. ISO and its partners
- 9.1 IEC Update

10. IT reports
- 10.1 Digitalisation (OSD ＋ SMART)
- 10.2 Update on IT projects

11. Important dates
- 11.1 Dates, places and subjects for the next TMB meetings

12. Any other business

3．決議・討議　結果

（本資料に掲載した決議文は，JSAが作成・公開している日本語訳を一部抜粋したものです。決議の正文はISOポータルをご確認ください）

①　キガリ協定　附属書Ⅰ　ー　規格の並行開発　（議題4.1）

【要すれば】

- 2025年10月（ISO総会@ルワンダ・キガリ）に**アフリカ標準化機構（ARSO）とISOとの協力に関する“キガリ協定”が承認**された。
- キガリ協定には以下の４つの附属書が含まれる予定。

  附属書I – 規格の開発、採用および地域間の調和

  附属書II – ライセンスおよび著作権保護

  附属書III – パイロットプロジェクト

  附属書IV – 能力構築および技術支援
- 上記のうち、「**附属書I：規格の開発、採用及び地域間の調和**」について紹介され、承認及び理事会への送付を行うことの可否について議論がなされた。
- ウイーン協定（CENとISOとの規格並行開発に関する協力）とキガリ協定における“規格並行開発”が異なる方式であることから、同一用語を用いることの曖昧さについて指摘あり。さらに、規格開発の要であるライセンスや著作権に関する附属書IIが固まる前に附属書Iのみを議論することの不完全さを指摘する意見あり。
- また、将来的にARSO側がリードして規格並行開発する際のクライテリアが不明瞭である点についても指摘があった。

【結論】

- これらの議論を踏まえ、**決議文の発出を見送り**、**TMB委員のうち数名による小グループで議論**することとなった。

②　PSDO合同開発ポリシー（議題4.2）

【要すれば】

- 従来は、パートナー規格開発機構（PSDO）とISOとの個別の協定文書の中で技術的及び商業的な取り決めがなされていたが、昨今のGHGPとの協力のように**異なる価値観や運営指針を有する組織同士が規格合同開発を行う場合に、ひずみが生じるケースが見受けられる**ようになった。
- また、**また、新DP1が発効されて以降、ファスト・トラックが 「採用（Adoption）プロセス」に改訂された。**
- PSDOとの協力がより高い一貫性と予見可能性を提供しつつ、ISO原則やISOにおける合意形成プロセスを維持することを目的に「PSDO合同開発ポリシー」案が示された。
- TMB委員から、①適切な協力メカニズムと商業的影響を含むより視野の広い内容にすべき、②既存のPSDO協力協定をこのポリシーに照らして評価し直すべき、③PSDO側とISO側のバランスの取れた代表制や協定が履行された後の各TCとの関係性についても考慮すべき、との意見が上がった。
- 特に、当該TCにおける専門家はPSDOパートナー組織の専門家と良好な関係を維持しなければならない立場であることから、対立構造に持ち込みたくないと感じることが多い。そのためにもより**上位レベルで相手側組織とコミュニケーションを取ることが求められている**との指摘もあった。

【結論】

- 上記のTMB委員からのコメントを反映した改訂PSDO合同開発ポリシー案がTMBに提出される予定。

③　戦略的エンゲージメント最新状況（議題4.3）

【要すれば】

- 理事会及びTMBによって選定された①戦略的に関与すべき10個のTC/SC、及び事務局が選定した②委員会の活動をレビューすべき５つのTC/SCについて説明があった。今回は①に選出されたTC207議長を招聘し、TMB委員によるヒアリングも実施された。
- TMB委員から、②の対象となる**委員会を選定するための客観的基準に基づくメカニズムを策定すべき**、①の対象委員会にも②と同様に支援を行う可能性も検討するべき、との意見があった。

【結論】

- ①の委員会と連携して各委員会に関する報告書を策定し、②の活動レビューを実施し翌年3月TMB会合に報告される。

＜①戦略的に関与すべき委員会＞

委員会	委員会名
ISO/IEC JTC 1/SC 42	人工知能
ISO/IEC JTC 1/SC 27	情報セキュリティ、サイバーセキュリティおよびプライバシー保護
ISO/TC 207/SC 7	温室効果ガスおよび気候変動の管理ならびに関連する活動
ISO/TC 204	高度道路交通システム
ISO/TC 299	ロボティクス
ISO/TC 309	組織のガバナンス
ISO/TC 323	循環型経済
ISO/TC 207	環境マネジメント
ISO/TC 301	エネルギー管理および省エネルギー
ISO/TC 176/SC 2	品質システム

＜②活動をレビューすべき委員会＞

委員会	委員会名	活動
ISO/TC 313	包装機械	2017年11月設置後、規格ステージ40.60（2025年12月～）
ISO/TC 326	食品用機械	活動なし
ISO/TC 327	天然石	活動なし
ISO/TC 332	金融機関および商業組織向けのセキュリティ機器	2020年6月設置後、キックステージ20.00（2025年7月～）。約1年活動無。
ISO/TC 338	月経用製品	2022年3月設置後、規格ステージ30.60

④　ロンドン宣言アクションプランTF（議題5.3.1）

【要すれば】

- 2021年ISO総会にて、国際規格の検討・発行時に気候変動について検討することが盛り込まれた「ロンドン宣言」が策定され、2022年夏にはその実施のために「ロンドン宣言アクションプラン」が承認され、2024年に更新された。
- これまでに1,100人以上の専門家が気候変動についてのトレーニングを受け、昨年11月に行われた調査の結果、**90%の委員会が「ロンドン宣言」を認識**しており、**84%の委員会が気候変動のためのアクションを起こしているか対処するための計画を有していた**との回答が得られた。
- 既にアクションプランで示されたほとんどの項目が完了しており、次のフェーズについて検討する時期に来ている。



「ロンドン宣言」が策定・公表された
2021年ISO総会（於：英国ロンドン）

【結論】

- 「ロンドン宣言アクションプラン」タスクフォース及びISO中央事務局は「ロンドン宣言」実施のための**次なるフェーズについての計画を準備**し、来年3月のTMB会合にて議論されることとなった。

⑤ツイニングに関するTMB-DEVCO TF の最終報告書（議題5.5.1）

【要すれば・・】

- 2018年に承認されたISOツイニング方針を見直すため、TMB-DEVCOタスクフォースが最終報告書をとりまとめ、タスクフォースとしての任務を完了した。最終報告書に規定された「改訂ツイニング方針」が承認（本年10月5日より実施）され、これにより**1対多のツイニング**適用や役割・機能ごとの**コンピテンシー・ベースの推薦制度**、**報告書手続きの簡素化**が導入されることになる。

決議93/2026

TMB決議 50/2025 に基づき設置されたツイニングに関するTMB-DEVCO合同タスクフォース（TF）の最終報告書に留意し、

ISO戦略2030、「ISO能力構築活動」の拡大、及び「発展途上国向け行動計画2026-2030」を含む2018年の現行のツイニング方針の承認以降におけるISOの戦略的および運営的環境の変化にさらに留意し、

TFによるレビューを通じて確認されたISO専門システム内における参加・能力・及びリーダーシップの強化のためのツイニングプログラムの貢献を認識し、

会議での意見を考慮し、TF報告書に示された改訂版ISOツイニング方針及び関連する実施枠組みを2026年10月5日より実施することとを承認し、

ISO/CSに対し、改訂版方針及び関連文書（関心表明書、ツイニング申請書、ツイニング協定テンプレート及び「ISO規格開発活動におけるツイニングに関するガイダンス」の改訂版を含む）を発行し実施するよう要請し、

ISO/CSに対し、改訂版方針に従って本プログラムを運営・監視すること、及び2028年3月を初回として2年毎に実施状況に関する報告書をTMBに提出し、更に当該報告書は情報共有のためDEVCOにも提供することを要請し、

ツイニング方針の改訂に貢献したツイニングに関するTMB-DEVCO合同TFのリーダー及びメンバーに感謝の意を表し、

同TFの任務完了に留意し、これを解散する。

⑥　重要鉱物に関するコーディネーション委員会（CMCC）（議題5.6.1）

【要すれば】

- 重要鉱物に関するSAG（Strategic Advisory Group）の提言を受けて2023年6月に「重要鉱物コーディネーション委員会（CMCC）」が設立され、年1回TMBに対して活動進捗報告を行っている。
- 本年6月にCMCCからTMBに提出された報告書の中で、**①重要鉱物リストの継続的モニタリング、②鉱物バリューチェーンのサステナビリティ及びトレーサビリティに関する連携強化、③物理化学分析に関するアプローチの検討**、が作業分野として特定され、**多くのTMBから支持する声**が寄せられた。一方で、**より幅広いステークホルダーの参画、透明性向上、関連委員会との緊密な協議、既存TC・外部組織との体系的な連携が必要である**との意見も寄せられた。
- 上記作業分野のうち②については、**TC308：Chain of Custodyにおいて、材料別のTCや横断的なTCとの協議のもと初期段階の検討が行われ、ステークホルダーとの連携・調整に重点を置きつつTMBに事前相談をしながら新たな作業をする**こととなった。
- また、③については**TC47：化学に主導的役割を与えることなく、探索的な調整活動を継続する。他方で、TC47は関連するTCと協議し、共通ニーズがある領域の特定し、新たな作業提案時にはTMBに報告し指示を仰ぐ**こととなった。
- 更に、TMB委員から、より幅広くバランスの取れたステークホルダーの参画を実現すべきとの意見があった。

【結論】

- TMB委員からのフィードバックをCMCCに伝達し、**幅広くバランスの取れたステークホルダーの参画を実現するためにCMCCの構成要員をどのように変更すべきか検討させ、TMBに報告される**こととなった。TMBは報告された構成要員の変更案をもとに、最も適切な対応策について話し合う予定。

⑦　ISO/TC 213 – ISO/FDIS 2768に関するSNV（スイス）による異議申し立て（議題6.1.1）

【要すれば・・】

- ISO/TC 213：製品の寸法・形状の仕様及び評価において“**FDIS 2768：幾何製品仕様（GPS）ー寸法公差ー　長さ及び角度サイズの普通仕様の公差限界”改定案**について、2026年6月のFDIS投票の結果、Pメンバー20か国中賛成17か国により承認されたことに対し。**スイスSNVから異議申し立て**が出された。
- スイスの主張は、本改訂により既存の技術図面の解釈に不確実性を生じさせることから、ユーザーに追加的な負担とコストを強いるため、FDIS改定案に反対するというもの。
- TMB委員から、TC213において専門家からの様々な意見を幅広く盛り込むための努力がこれまで充分に行われており、些末な点で**ＩＳＯの発行を遅らせるべきではない**との意見が多くを占めた。

→　多数が賛同している案件に、１か国だけで異議申し立てを行うことの困難さが感じられた。
（事前根回し、TCレベルでの仲間づくりが重要。）

決議94/2026

ISO 2768：製品の幾何特性仕様（GPS）— 寸法公差 — 線形寸法及び角度寸法の一般仕様に関する公差限界 のFDIS投票に関してSNVから提出された異議申し立てに留意し，

SNVおよびISO/TC 213のリーダーシップから提供された情報を考慮し，

FDIS投票の結果に基づき，ISO 2768の発行手続きを継続してよいことを確認する。

⑧　ISO19011の割り当てに関するCASCOからの要求（議題6.1.2）

【要すれば】

- CASCO（適合性評価委員会）から、“ISO 19011：マネジメントシステム監査のためのガイダンス“の改訂版発行後及びPC 302（米ANSIが幹事）解散以降は**CASCOをISO 19011の担当として割り当てるべく要望**があった。他方で、PC 302幹事国の**米ANSIは、CASCOへの移管には反対姿勢であり、引き続きPC 302の管理下に置くべき**と主張。
- TMB会合において、CASCO議長がプレゼンテーションを行い、CASCOが恒久的な組織であること、参加国が多数（145カ国加盟、Pメンバー97）であること、CASCOの所掌に適合性評価や監査に関する内容も含まれること、について説明をおこなった。
- その後、TMB委員間で議論を行ったものの、賛否両論の状況が続いた。米ANSIの立場を支持する意見としては**ISO 19011が適合性評価に特化したものではなく**内部監査やサプライヤー監査等のマネジメントシステム監査に関するものであること、規格開発には**監査の専門性が引き続き関与する必要**があること、が指摘された。CASCOの立場を支持する意見としては、2023年のTMB会合において改訂ISO 19011発行後もその維持管理をCASCOに委任することが可能であるとTMB議長が発言したこと、CASCOの恒常性、を理由として挙げた。

【結論】

- TMB議長は、改訂版ISO 19011発効前である今、結論を急ぐ必要はなく、本件の専門性がPC 302やCASCOのどちらかにだけある訳ではなくISOそのものに専門性があるのだから、CASCOとPC 302とで協業できる姿を模索したいとの発言があった。
- 今後のアクションとして、PC 302に対してはCASCOにISO 19011を移譲する案を協議してもらい、CASCOに対しては作業実施体制を検討してもらい、**来年3月のＴＭＢ会合までにPC 302とCASCOの双方からのフィードバックをＴＭＢ委員に報告する**こととなった。

⑨　ISO/GHGP パートナーシップ –　実施に関するフィードバック及び今後の対応　（議題6.1.4）

※当初は“情報共有”議題であったが、複数のTMB委員から“討議”とすべきと提案があり、結果として“決議”を出すまでとなった。

【要すれば・・】

・2025年8月に締結されたGHGP（温室効果ガス・プロトコル）とのPSDO協定に基づき、３つのモードの国際標準を策定中。

＊モード１：企業のGHG算出（GHGP主導）　ISO 14064-1：ISO/TC 207/SC7/WG4

＊モード２：プロジェクト算定（ISO主導）　ISO 14064-2：ISO/TC 207/SC7/WG5

＊モード３：製品のカーボンフットプリント（ISO－GHGP共同開発）　ISO 14067：ISO/TC 207/SC7/JWG8

- ところが、モード３について共同開発であるにも関わらず、**GFGP側が主導権を譲らず、コンビナーが急遽辞任する等、GHG側とISO側とのコンフリクトが生じている**との報告が多く寄せられた。
- そのため、本件については早急にTMB会合にて方針を示す必要があることから、以下の決議文を発出することとなった。

決議95/2026

TMBは，TMBメンバーによって特定された実施に関するフィードバックに留意し，

ISOおよびGHGPにとって本パートナーシップが重要であることを踏まえ，

ISO/CSに対し，GHGプロトコル事務局，各委員会のリーダーシップ，および合同調整グループと連携し，双方の組織からのフィードバックを集約した上で，適切な是正措置，責任分担，および実施スケジュールについて合意するよう要請し，

ISO/CSに対し，2026年10月末までに専門コミュニティへの適切かつ定期的な情報伝達を行うよう要請し，

2027年3月のTMB会議において，進捗状況の報告を行うよう要請する。

⑩　知的財産に関するTS/P提案のレビュー　（議題6.3.1）

【要すれば・・】

- ロシアから提案された知的財産に関する新規提案について、法的・規制的・商業的な面で標準化にふさわしくない面が含まれているとの指摘がTMB委員から上がった。また、各国が国内法制、地域法制を有しており、WIPOが国際的にも関与している政策であること、仮に法的な側面を除いたとしても既存TCとの重複が見られることから、ロシアが提案する新TCを設立した場合は、作業の重複と分断化のリスクがあることも指摘された。
- よって、**ロシアからの新規提案は否決され、提案内容を各国に回付しないことが決議された**。

決議96/2026

提案を提出してくれた GOST R（ロシア連邦）に感謝し，

調整および整合性に関する評価を通じて特定された懸念事項に留意し，

法務，規制，法執行，ライセンス供与，および管轄区域固有の事項を除外した場合，残りの業務範囲の大部分が既存のISO委員会の業務に含まれるか，またはそれらと重複していることに留意し，

当該提案は，現行の形態では，会員団体が十分な情報に基づいて投票を行うことを可能にするほど明確かつ整合性のある専門的活動分野を定義していないと判断し，

現行の形態での提案の回付を行わないことを決定し，

GOST Rに対し，本提案の推進を希望する場合には，具体的かつ専門的に整合性のある活動分野を定義し，具体的な業務計画および既存のISO業務との詳細なマッピングを伴った修正提案を提出するよう促し，

修正提案が提出される前に，関連する既存の委員会との協議を円滑に進めるようISO/CSに要請する。

⑪　測位・航法・時刻同期（PNT）サービスに関するTS/P提案のレビュー（議題6.3.2）

【要すれば・・】

- 韓国KATSから提案された“測位・航法・時刻同期（PNT）サービス”に関する新規提案について、これまでに実施されたオープン・コンサルテーションの内容を踏まえ、既存TCとの関係性や役割分担について韓国側が整理し直した内容についてプレゼンテーションがなされた。
- 既存TCであるTC 211:地理情報、TC 20/SC 14:宇宙システム及び運用との重複について更にコーディネートが必要との意見があったが、PNTサービスの重要性の高まりも踏まえると、各国に対して新TCとして設立すべきか既存のTCの下で扱うべきか、またはＪＷＧのような形が良いのか広く意見を聞くべきであるとの結論に落ち着いた。
- よって、韓国KATSからの新規提案について、上記の意図を記載したカバーレターを付記した上で、**提案内容を各国に回付することが決議された**。

決議97/2026

TMBは,

測位・航法・時刻同期（PNT）サービスに関するTS/PのレビューがISO/IEC専門業務指針箇条1.5.5 に従って完了したことを確認し,

当該提案を全ての会員団体へ回付することを承認する。

⑫　地熱エネルギーに関するTS/P提案のレビュー（議題6.3.3）

【要すれば・・】

・セントクリストファー・ネービス（ISO加盟国だがIEC加盟国ではない）から提案のあった**“地熱エネルギー”に関する新規提案**について、IECの既存TC（地熱発電、電気技術システム）と境界線に留意が必要であることから、新たに設立されたTCG（Technical Coordination Group）にて**ISOとIECとの適切な分担を評価し、明確な境界と調整体制についての検討すること**がTMB及びSMB議長間で合意された。

※TCG（Technical Coordination Group）とは、IEC及びISOのTC間での重複や対立を解決するために新たに組織されグループであり、ISO/TMB 3名、IEC/SMB 3名から組成される。





セントクリストファー・ネービス
Saint Christopher and Nevis

決議98/2026

TMBは，

SKNBS（セントクリストファー・ネイビス）による取り組みおよび提案に感謝し，

調整および整合性評価の過程で提起された懸念，特に既存のIEC業務との境界に関する懸念に留意し，

TMBおよびSMBの議長が，TCGへの付託が妥当であると合意したことに留意し，

IEC標準管理評議会の同意を条件として，当該提案を技術調整グループ（TCG）に付託し，

TCGに対し，以下の事項を行うよう提案する。

- **ISOとIECの間における地熱エネルギーの標準化の適切な分担を評価する**
- **今後の活動に向けた明確な境界および調整の取り決めを合同体制の検討の要否を含めて推奨する**
- **当該提案が会員団体に回付される前に，TMBおよびSMBに対して推奨事項を提示する**

⑬　デジタル化（OSD＋SMART）（議題10.1）

【要すれば・・】

ISO中央事務局から**OSD（Online Standards Development）とSMART Standardsの普及・開発状況**についての報告があり、TMB委員が今後のデジタル化の方向性を議論した。

- OSDはSMART規格の基盤であり、各TCや専門家による利用拡大が重要であることが確認された。
- OSDの最大の課題は**コメント解決（comment resolution）機能の未整備**であり、2026年末の実装が予定されている。
- SMART関連では、**Information Model 2.0、SMART API、変換パイプライン** などの主要成果物の開発が進んでいることが報告された。変換パイプラインは2026年末に提供可能であり、データ抽出が2027年に開始される見込み。そのデータ抽出をどのようにOSDに統合するかは未定。
- Information ModelはISO/IEC Directives Part 2を機械可読化したものであり、AI時代を見据えたSMART規格の重要な基盤と位置付けられた。
- SMARTパイロットでは、ツール、ワークフロー、利用者ニーズ、ビジネスモデルなどを検証しているが、事業モデルや維持管理体制はまだ確立していない。
- 既存規格（legacy standards）のSMART化については引き続き検討中である。
- **SMARTコンテンツの品質確保のため、専門家による検証（expert validation） が重要**であることが確認された。ただし、TCの負担増大への対応も必要とされた。
- TMB委員は、**SDU(Standards Development Unit)とJDMT(Joint Directives Maintenance Team)との連携の必要性、SMARTコンテンツに関するJDMTワーキンググループ設立の必要性を強調**した。

TMB議長は、OSDとSMARTの目的は**利用者がISO規格をより効率的かつ効果的に利用できるようにすること**であると総括した。

今後のTMB会合予定(議題11)

会議	日程	場所	
第98回TMB会合	2027年3月	ソウル（韓国）	
第99回TMB会合	2027年6月	ヴィンタートゥール（スイス）	※SMB-TMB
第100回TMB会合	2027年9月	イスタンブール（トルコ）	※ISO総会
第101回TMB会合	2028年3月	TBC（米国）	
第102回TMB会合	2028年6月	ジュネーブ（スイス）	※SMB-TMB
第103回TMB会合	2028年9月	ナイロビ（ケニヤ）	※ISO総会
第104回TMB会合	2029年3月	TBC（中国）	
第105回TMB会合	2029年6月	ジュネーブ（スイス）	※SMB-TMB

４．TMB通信投票決議一覧

（2026年第96回TMB会議以降～第97回TMB会議まで）

TMB決議 76/2026 ～ TMB決議 92/2026, TMB決議 99/2026 ～ TMB決議 101/2026

TMB決議 76/2026	ISO/TC 207/SC 2 環境監査及び関連業務 の解散
TMB決議 77/2026	ISO/TC 279 の下の新しい分科委員会 価値マネジメント及びバリューエンジニアリング（SC 1）の設置
TMB決議 78/2026	創傷被覆材及び圧迫材 に関する専門委員会（ISO/TC 357）の設置
TMB決議 79/2026	ISO Guide 82 - 規格の持続可能性に対処するための指針 の委員会原案投票のためのTMBへの提出
TMB決議 80/2026	人工氷雪景観構造物に関する専門委員会（ISO/TC 358）の設置
TMB決議 81/2026	TC議長の任命（2026年6月）
TMB決議 82/2026	ISO/TC 121 麻酔装置及び人工呼吸器関連装置 の名称変更
TMB決議 83/2026	輸送部門の温室効果ガス（GHG）排出量算定に用いられる排出係数の算定に関する整合化された手法についての IWA
TMB決議 84/2026	2027年CASCO業務計画の追認
TMB決議 85/2026	ISO/IEC技術調整グループ（TCG）の承認

TMB決議 76/2026 ～ TMB決議 92/2026, TMB決議 99/2026 ～ TMB決議 101/2026

TMB決議 86/2026	ISO/IEC JTC 4の構成および段階的移行の提案の承認
TMB決議 87/2026	ISO/TC 345 特殊金属及び鉱物 の業務範囲の変更
TMB決議 88/2026	ISO/TC 312 サービスエクセレンスの再割り当て
TMB決議 89/2026	TC議長の任命（2026年7月）
TMB決議 90/2026	ISO/TC 118/SC 4 圧縮空気の調質技術の再割り当て
TMB決議 91/2026	廃止投票への異議（2026年第2四半期）
TMB決議 92/2026	トンネルの土木・構造設計 に関する専門委員会（ISO/TC 359）の設置
TMB決議 99/2026	ISO/TC 310 育児用品 の再割り当て
TMB決議 100/2026	ISO特許ポリシーグループの解散
TMB決議 101/2026	TC議長の任命（2026年8月）

5．ご参考

SPCG（Standardization Programme Coordination Group）について

ISO/IEC/ITU（ITU: 国際電気通信連合）において、内容が重複しているTC（SC）設置の回避や、３機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置（日本からは、当初よりTMB委員が参加）。

- **年３回のオンライン会議＋年1回の対面会議（本年10月26日@東京）**

①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応

②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応

③SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ

④SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告

⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）

⑥３組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

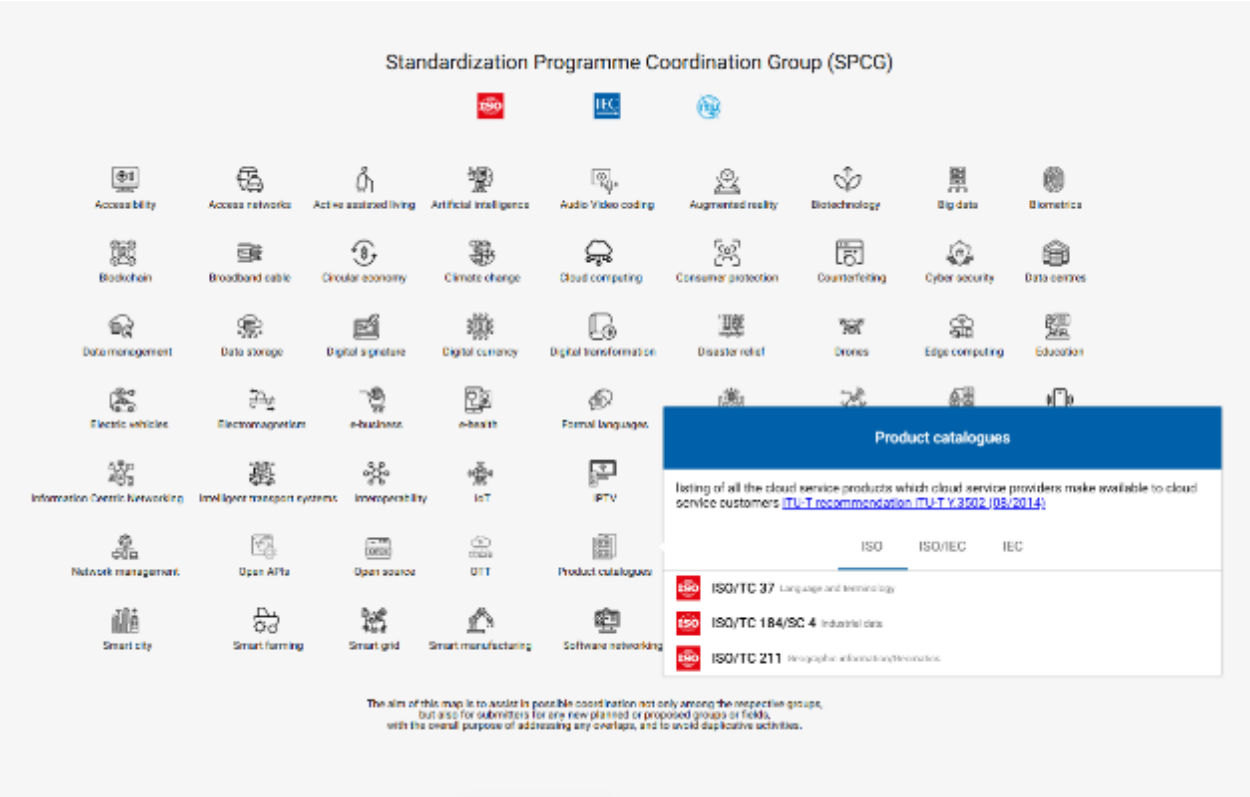
https://www.worldstandardscooperation.org/
https://www.worldstandardscooperation.org/what-we-do/spcg/

Home Who we are What we do Connect with us

Standardization Programme Coordination Group (SPCG)

Home / What we do / Standardization Programme Coordination Group (SPCG)

Making standards work together



Guidance on new work



Year of publication: 2026 | Edition: 3

This guidance document details the process for preparing, submitting, and approving proposals for new committees, including technical committees (TCs) and project committees (PCs). It introduces the concept of International Workshop Agreements (IWAs) for urgent market needs and provides guidance on proposing new work items within existing committees.

The document emphasizes market relevance, stakeholder engagement, and coordination with existing technical structures.

Before preparing the proposal

Before submitting a proposal, proposers should review existing committee scopes, Strategic Business Plans, work programmes and publications. They should also identify related work in IEC, ITU-T and other relevant organizations, including through the Standardization Programme Coordination Group (SPCG) interactive mapping of IEC, ISO and ITU-T fields and activities, and confirm that the proposed field responds to a demonstrated global market need and clear stakeholder expectations.

This review helps ensure that existing ISO work and structures are used before new ones are created. If the proposed work aligns with the scope, Strategic Business Plan, work programme or publications of an existing committee, a new committee will not normally be established, and the work should instead be allocated to the relevant existing structure.

SPCG会合・JDMT会合 in Tokyo (10/25-29)



【産総研G-QuAT視察@つくば】

（堀部副センター長による解説）



【JDMT集合写真】
※Joint Directives Maintenance Team



【SPCG集合写真】

ご清聴ありがとうございました

経済産業省ウェブサイト（標準化・認証政策）
https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html

日本産業標準調査会（JISC）ウェブサイト
https://www.jisc.go.jp/

一般社団法人 日本規格協会（JSA）ウェブサイト（TMB決議集などを掲載）
https://webdesk.jsa.or.jp/common/W10K0500/index/dev/std_hokokukai